

(別紙2)

審査の結果の要旨

論文題目：清代徽州地域社会史研究―境界・集団・ネットワークと社会秩序

氏名：熊遠報

本論文は、中国の安徽・江西両省にまたがる山間部に位置する徽州地方に焦点をあて、族譜や日記、訴訟記録などの地方史料を活用して、清代の当該地域社会の様相を多面的に明らかにしたものである。本論文の特徴は、第一に、中国各地はもとより日本や米国の研究機関に収蔵された関連史料を博搜し、族譜のなかの村落図や訴訟記録など新しい史料を発掘するとともに、その史料性格に留意した分析が行われていること、また第二に、当時の人々が多様な選択肢のなかから柔軟に社会関係を形成してゆく過程に焦点を当てた克明な叙述によって、当時の地方社会の具体相を生き生きと描写していることである。

第一章では、族譜に収載された村落図20種余りを用いて、現地での調査とつきあわせつつ、当時の村落景観とその形成、及び村落の構造や境界をめぐる人々の社会認識のあり方を検討するという、研究史上新しい試みを行った。第二章では、農村社会における社会関係網の形成を論じ、血縁系譜の再構成と偽作の過程を史料に即して解明するとともに、郷約・文会・祭祀組織など、多様な関係網を通じて村落社会の統合が維持されていたことを明らかにした。第三章は、知識人の日記を主な素材として、清代前期の村落社会における紛争処理の実態を検討し、また第四章では、清代中期に風水維持のための貯水施設の建設をめぐる県の範囲を超える大きな紛争となった事件を取り上げ、訴訟記録の検討を通じて、紛争の背景となる城（都市）と郷（農村）との社会的対立を分析している。

時期的な変化への関心がやや弱い点、また村落社会の諸側面の記述が必ずしも有機的な整合性をもつ全体像へと統合しきれていない点、などの問題はあるが、本論文で描かれた村落社会像の細部の具体性や、村落図など新史料の導入の試みは、研究史上の重要な寄与として高く評価できる。よって審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位に相当するものと判断する。